

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅲ	4	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	新編 数学Ⅲ(数研出版)	はぎとり式計算ドリル 数学Ⅲ 標準編(数研出版) ベーシックスタイル 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B	

科目の到達目標
・数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
・指数・対数・三角関数等いろいろな関数についての微分法、積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図る。
・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する姿勢を育み、多面的・発展的に考え、論理的に思考し表現する能力を養う。

評価の観点と方法について
「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「意識・理解」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を、定期考査、課題プリント、レポート、小テスト、課題テスト等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	3章 逆関数と合成関数	逆関数、合成関数の性質を学び、方程式、不等式に応用する。	逆関数と合成関数	合成関数や逆関数の意味を理解し、合成関数や逆関数を求めることができる。
	5	第4章 極限 1節 数列の極限 2節 関数の極限 (中間考査)	数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	数列の極限、無限等比数列、無限級数 関数の極限、三角関数と極限 関数の連続性	不定形の関数の式を変形し、関数の極限を求めることができる。
		第7章 積分法 1節 不定積分	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする 定積分の置換積分法、部分積分法に習熟する	不定積分 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法	置換積分法、部分積分法について理解し、それらを用いて定積分を求めることができる。
	6	2節 定積分	簡単な微分方程式や区分求積法について考察し、定積分から不等式についても学び、無限級数の収束、発散を調べる	定積分のいろいろな問題 面積 体積 道のり、曲線の長さ 微分方程式	図形の面積や体積、曲線の長さなどを求めることができる。
	7	3節 定積分の応用	いろいろな図形の面積、いろいろな立体の体積を求めることができるようにする		

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	大学入試共通テスト対策	大学入試共通テストに必要な基礎力を付ける、問題の形式に慣れる。 目標点をとれるようにする。	大学入試共通テスト対策を行う。	大学入試共通テストの難易度、問題の内容、問題の形式などに慣れていき、大学入試共通テストで高得点を取るための実力とテクニックを身に付けているか。
	10	(中間考査)			
	11				
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B 総復習 (学年末考査)	記述テストに対応できる答案作成力を身につける。		問題構造を分析し、解法のストーリーをすばやくイメージすることができるか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

数Ⅲの授業では第3章の3と第4章、第7章を学習する。その後、1,2年生で学習した範囲での入試演習を行う。

数Ⅲは、入試問題として出題される問題は典型的な問題が多いので、反復して演習すること。授業の進度にあわせて問題集を進んでいくこと。

テスト前にはレポートを提出してください。目標を定め、それに向かっでの努力が必要である。

やらされる勉強ではなく、自ら自発的・積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力をつけてほしい。

良問を1題でも多く練習をする事に尽きる。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学Ⅲ	5	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	高等学校 改訂版数学Ⅲ (数研出版)	チャート式 基礎からの数学Ⅲ (数研出版)	

科目の到達目標

微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。

評価の観点と方法について

「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて、基本的な概念や法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察・表現・処理する仕方や推論の方法を身につけ、活用できているかを評価する。評価方法は平素の授業への取り組み、小テスト、課題、定期考査等である。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第5章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求める。合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求める。三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求める。	<ul style="list-style-type: none"> 導関数 微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 いろいろな関数の導関数 第n次導関数 曲線の方程式と導関数 導関数の応用 	<p>【次のことができていますか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 微分係数・微分可能の定義とその図形的性質を理解している。導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 三角関数、指数・対数関数、陰関数、媒介変数で表された関数などの導関数を理解している。 導関数の意味を理解しており、接線の方程式を導くことができる。 平均値の定理を理解し、それを活用することができる。 関数の増減・凹凸・変曲点・漸近線などを調べ、関数のグラフをかくことができる。また、それらを利用して関数の最大値・最小値を求め、さらに方程式・不等式への応用ができる。 いろいろな関数の不定積分を求めることができる。 被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 色々な関数の定積分を求めることができる。 特別な形をした数列の和の極限を定積分を利用して求めることができる。
	5	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりする。また、それらを事象の考察に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 導関数の応用 接線の方程式 平均値の定理 関数の値の変化 関数のグラフ いろいろな応用 方程式・不等式への応用 速度と加速度 近似式 	
	6	(中間考査) 第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用	積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分 不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分 定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 定積分のいろいろな問題 	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
	7	(期末考査) (夏期講習)		・積分法の応用 面積 体積 道のり 曲線の長さ	・定積分を用いて様々な図形の面積や体積を求めることができる。 ・定積分を用いて様々な曲線の長さを求めることができる。
二 学 期	9	(中間考査)	標準問題までを確実に解く力量を養う。	入試問題演習(標準編) 標準的な数学Ⅲの問題を演習する。 定期的の実力テストを行い、実践力を養う。	・1学期に学習した基本事項、定石を理解しているか確認する。
	10		標準問題までを確実に解く力量を養う。	入試問題演習(実践編) 近年出題された入試問題を中心に、入試問題を実際に解く。 定期的の実力テストを行い、実践力を養う。	
	11		応用力をつける。 難度の高い問題を解く力量を養う。	数学演習①の授業と協力して、共通テスト対策の解説の授業と数学Ⅲの演習の授業に分けて、生徒のニーズに対応する。	
	12	今までの演習の総まとめ。 演習を重ねるごとに難易度を上げ、実力を養成する。 共通テストに備えて実践を積む。	個別に、志望校・実力に応じたレベルの問題の演習を実施する。		
		(期末考査) (冬期講習)			
三 学 期	1		共通テスト対策と私立・2次試験対策を行う。		

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

2年次で、「第1章 複素数平面」「第2章 式と曲線」「第3章 関数」「第4章 極限」は履修をおえている。1・2年次に引き続き、小テストを行い、青チャート、青チャートの補助プリントと合わせてテスト前の課題とする。自分で解けるようになって初めて自分の力となる。自力で解くことの大切さを理解し、問題集は自力で解けるようになるまで、何度も同じ問題を解いてほしい。そうすれば、確実に数学の力はついていく。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学B	2	3年・1類・A型	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	改訂版 新編 数学B 数研出版		Study-Up ノート数学B

科目の到達目標
ベクトル、数列について基礎的な知識と発想の仕方を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図る。
事象を数学的に表現・考察する能力を育てる学習を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識させ、さらに、これらを活用する態度を伸ばす。

評価の観点と方法について
評価は「知識、理解」「関心、意欲、態度」「数学的な見方や考え方」「表現、処理」の4つの観点に基づいて定期考査、小テスト、レポート、平素の学習意欲、学習態度、出席状況、によって行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
第一 学期	4	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	等差数列や等比数列についての基本的な知識及び計算技能を習得させると共に規則性を発見できる能力を養う。	数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和	等差数列と等比数列の一般項とその和が求められる。
	5	<中間考査>			
	6	第2節 いろいろな数列	階差数列など色々な数列の一般項、または和を求める際の基本的発想を習得させると共に Σ の計算についても慣れるようにする。 漸化式のいくつかのパターンを取り扱い、一般項が求められるようにする。	和の記号 Σ いろいろな数列 階差数列 数列の和 分数で表わされた数列の和 群数列	Σ 記号が自由に使え、数列の和が求められる。
	7	第3節 数学的帰納法 <期末考査>		漸化式	漸化式を用いて一般項が求められる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
第二学期	9	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	ベクトルの基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法・実数倍 ベクトルの成分	ベクトルの演算ができ、図形に活用できる。
	10	ベクトルの内積 <中間考査>	直交座標とともにベクトルが図形を考察する上の有効な道具である事を理解する。	三角比の復習 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルの図形への応用	内積の意味が理解でき、活用できる。
	11	第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル	平面上のベクトルで習ったことを空間でも活用できるようにする。	空間座標 空間におけるベクトル	空間の概念を理解でき、ベクトルを空間図形に利用できる。
	12	<期末考査>			
第三学期	1	高校数学のまとめ <学年末考査>	高校数学の内容をふりかえる。	数学ⅠA ⅡB の中からいくつかの分野を再確認する。	
	2				
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>数学Bで学習するベクトル・数列では、新しい考え方を取り扱います。とまどうこともあるかもしれませんが、授業を真剣に受講していれば必ず理解できます。数学の力を上げるためには、自分で問題を解くことが必要です。授業が終わるたびに問題を解きましょう。また出された課題は必ず解き提出すること。日々の継続した学習によって、苦手が得意に変わります。努力すればするほど学力は上がります。学習を続けることによって、最終学年のこの1年、あなたは数学の魅力を堪能できるはずです。授業、復習、予習を繰り返し、数学を得意科目にして卒業してくれることを願っています。</p>					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	4	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	ベーシックスタイル数学演習 I A II B (数研出版) 数学 I・A 一問一答 (東進ブックス)	

科目の到達目標
数学 I、A の基本事項を復習し、これらの基本的な知識を習得する。その後、マーク形式の問題を中心に演習し、大学入試、大学入学共通テスト、医療系の専門学校に対応できる学力を養成する。

評価の観点と方法について
日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テスト、課題テスト、定期考査、レポート等で確認していく。特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。以上を総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学 I・A ・数と式 ・集合と論証 ・2次関数 ・図形と計量	定理、公式の再確認を行い、基本的な解法の定着を図る。	「公式・用語の確認編」の小テストを実施し定着を図る。 「テーマ別演習編」の問題を用いて公式・定理の使い方を確認し、定着度を課題テストや定期考査を用いて確認する。	基本的な定理・公式を身につけて、それらを正確に使うことができる。
	5	<中間考査> ・場合の数・確率 ・図形の性質	典型的な入試問題に慣れ、難度の高い問題にもチャレンジすることで全体を見通す力を養成する。	「入試問題実践編」の問題を用いて、入試における基本問題を解く上で、公式・定理をどのように使用するのかを学ぶ。 以上を繰り返して、数学 IA の基本事項を総整理し、夏期講習以降の演習につなげる。	問題を解く上で、必要な定理・公式を選択し、それらを用いて解くことができる。
	6	・データの分析 ・整数の性質		定期的「ベーシックスタイル」から問題を指定して、課題を出す。	
	7	<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学I・A	1 学期で身につけた定理・公式・定石を利用して、標準的な問題を解く力を養成する。	「ベーシックスタイルI IIAB」の Complete 問題を解く。	基本的な定理・公式・定石を組み合わせて、標準的な問題を解くことができる。
	10	<中間考査>			
	11	大学入学共通テスト対策	プレテストをすることにより、共通テスト形式の問題に慣れ、時間の使い方を身につけさせる。	プレテストを授業中に実施する。	誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	数学I・A <学年末考査>	数学 IA の基本的な公式・定理を再確認し、それらを使えるようにし、一般教養としての数学を身につける。	数学 IA 一問一答を用いて、基本事項の再確認をする。	数学 IA の基本事項が身についている。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

この授業では、大学入学共通テストで、平均点以上の得点を確保できることを目指します。

数学は考える力を育て、問題の意味を適切にとらえ、自分の力で判断していく力が要求される科目ですが、必要事項を覚えていないとこれらの力が身につくことはありません。暗記しなければならないことは暗記すると割り切って学習に臨んでもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習②	3	3年・1類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	ベーシックスタイル数学演習ⅠAⅡB (数研) 数学Ⅱ・B 一問一答 2nd edition(東進ブックス)	

科目の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・数学ⅡBの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を第1目標とし、その上に立って代表的典型的な入試問題の取り組み方と、思考パターンおよび解法の技術を身に付ける。 ・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。 ・さらに日々の演習により応用力と実践力を高め、大学入試センター試験・国公立2次試験および私立大入試に対応できる実力を養成する。

評価の観点と方法について
<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テスト、課題テスト、定期考査等で確認していく。 ・特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。 ・以上を総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Ⅱ ・式と証明 ・複素数と方程式 ・三角関数 ・指数関数と 対数関数	定理、公式の再確認を行い、 基本的な解法の定着を図る。	演習の解説をする。	基本的な定理・公式を正確 に使うことができる。
	5	(中間考査)			
	6	・図形と方程式 ・積分法と積分法			
	7	(期末考査)			
	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント

二 学 期	9	・ベクトル ・数列			
	10				
	11	<中間考査> 共通テスト 対策問題	マーク形式の問題の学習を通して、1つの問題が基本問題の組合せで作成されていることを理解させる。	共通テスト対策問題集を用いる。解説により理解を深め、さらに類題により定着を図る。	共通テスト形式の問題を実際に解くことで、融合している1つ1つの基本問題に気づき、正確な解法の道筋をたどることができる。
	12	<期末考査>			誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
三 学 期	1	数学Ⅱ・B	これまでに学習した知識を整理する。 共通テストの本番で目標の点数をとるイメージができるようになる。	標準的な問題を用いて、総整理をする。	誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	2	<学年末考査>			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死に努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多く解く事に尽きる。クイズを解くつもりで楽しみながらやればいい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習③	3	3年・I類・B型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	新編 数学Ⅲ (数研出版)	はぎ取り式 練習ドリル 数学Ⅲ【標準編】(数研出版) リンク数学演習Ⅲ (数研出版)	

科目の到達目標
・複素数平面、式と曲線、微分、微分法とその応用における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識の習得と技能の習
熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
・単に解法テクニックの暗記だけではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する姿勢を育み、多面的・発展的に考え、論理的に思考し表現する能力を養う。

評価の観点と方法について
「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「意識・理解」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を、定期考査、課題プリント、レポート、小テスト、課題テスト 等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線	3つの2次曲線について理解する。2次曲線と直線の位置関係を連立方程式の実数解の個数で調べる。	1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線	・2次曲線の方程式からグラフを描けるか。いろいろな問題を解くことができるか。 ・平行移動について理解しているかどうか。
	5	第5章 微分法 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな関数の導関数 (中間考査)	積・商の導関数、合成関数・逆関数の微分法を身につける。 いろいろな関数の導関数を求める	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数	・いろいろな関数の導関数を求めることができる。
	6	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	導関数を用いていろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識する。	1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式	・接線・法線の方程式が求められることができる。平均値の定理に興味を持ち図形的意味を考察しようとする。関数の増減、極値、グラフの凹凸および変曲点などを調べてグラフがかけ、方程式・不等式に活用できる。
	7	(期末考査) 【夏期講習】		リンクのC問題を用いて演習する	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第1章 複素数平面	複素数を用いて様々な図形等の考察ができるようになる。	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	・複素数について理解しているか。 原点に関する回転、 n 乗根との関連を理解しているか。 図形への応用問題を解けるか。
	10	(中間考査) 大学入学共通テスト対策	大学入学共通テストの出題形式に慣れる	数学Ⅲの授業と協力して、大学入学共通テストに向けての対策を実施すると同時に数学Ⅲを必要とする生徒に対しては個別対応する。	・誘導のねらいに気づき、それを利用して、問題を速く、正確に解ける。
	11				
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学Ⅱ・B (学年末考査)	数学Ⅱ・Bの基本事項を再確認し、一般教養程度の知識を身につける	ベーシックスタイルを活用して、問題演習をする。	・数学ⅡBの公式・定理・定石がみについていないかどうか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

この授業では、数学Ⅲの基本事項を身につけ、標準的な入試問題に対応できる力を養成することを目的とする。数学は考える力を育て、問題の意味を適切にとらえ、自分の力で判断していく力が要求される科目ですが、必要事項を覚えていないとこれらの力が身につくことはありません。暗記しなければならないことは暗記すると割り切って学習に臨んでもらいたい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・1類・C型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	ランダム演習 数学I+A 基本編 (数研出版)	

科目の到達目標
・問題演習を通して数学IAの基本事項を確認し、基礎学力の定着を図る。
・数学的なものの見方・考え方を身に付ける。

評価の観点と方法について
・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を小テストや課題レポート、定期考査等で評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	基本的な計算の確認 数学I、数学Aの問題演習	数学I、数学Aの基本的な 問題の解法を暗記し使い こなせるようになる。	問題集p2,3 中学校の復習、 基本的な計算問題 問題集p4～p11	公式、定理を理解し、 基本レベル問題を解 くことができるか。
	5	(中間考査)			
	6	数学I、数学Aの問題演習		問題集p12～p24	
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学 I、数学 A の問題演習	数学 I、数学 A の基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	問題集 p 25～p 35	公式、定理を理解し、基本レベル問題を解くことができるか。
	10	(中間考査)			
	11	数学 I、数学 A の問題演習		問題集 p 36～p 48	
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	数学 I、数学 A の問題演習 (学年末考査)	数学 I、数学 A の基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	問題集の総復習	公式、定理を理解し、基本レベル問題を解くことができるか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

ランダム演習数学 I+A は、数学 I、数学 A の問題が分野別ではなくランダムに配列されている書き込み式の問題集である。問題集に付属の指針集には、問題文と問題を解くための指針が載っている。1 回目は問題集に直接解答を書き込み、2 回目からは指針集の問題文を見てノートに解くこと。指針集を活用し、繰り返し復習することで、問題の解法を暗記し、使いこなせるようになってください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・2類・文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	こちらで用意したテキスト（プリント）等	

科目の到達目標
・数学 I、数学 A の基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。
・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。
・日々の演習により理解と思考を深め、共通テストおよび文系の入試に対応できる実力を養成する。

評価の観点と方法について
平素の学習意欲や態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を確認テスト、課題レポート等で確認する。定期考査、確認テストの各成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学 IA の総復習 数と式 集合と命題 2次関数 2次方程式	学習してきた内容の 定着の確認	まず、こちらで準備したテキストを配布する。公式確認問題は前年度に演習したものからの抜粋なので、各自で予習しておくこと。 授業ではまず公式の確認や【基本問題】の演習から始める。特に数学が苦手な者はあらかじめこの【基本問題】を解いておいて、「どの問題がわからないか」だけでも確認してくる。演習後、解説を行う。 次に【実践問題】の演習を行い、その後、過去問などを演習する。	課題の提出状況と確認テストの結果は十分か。 定石が身についているかどうか。 題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	5	2次不等式 データの分析 (中間考査)			
	6	三角比 順列 組合せ 確率 平面図形 整数			
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	プレテスト開始	1 学期に学習した内容の定着	共通テストの過去問等を解説する。 演習を通して、入試における基礎学力の運用力を高める。	問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	10	(中間考査)	共通テストの数学①の本試験の過去問題等の解説を通して、マーク式の問題の読み方と解き方を身につける。	プレテストにより、実戦力を養う。 数学演習②と調整しながら、数回、本番と同じ 60 分の試験時間を確保してプレテストを実施する。	
	11	(期末考査)	学習してきた内容の定着の確認	苦手な分野については適宜、課題を準備して、十分な量が演習できるようにする。	学習してきたマーク式特有の読み方・解き方が身についているか。
	12		本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。		50 分の考査時間でセンター試験数学①と同程度の難易・分量の問題を解くことができるか。
三 学 期	1		実践を繰り返すことにより得点力アップを図る。	共通テストプレテスト演習	誘導の狙いを即座に理解し、機械的に問題を解くことができるか。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

この授業では、共通テストで高得点をとることを目指しています。授業を聞いているだけでは、数学の力はついてきません。自分の頭で考え、自力で解いて初めて、数学の力はついてきます。自分で解くことで、弱点を見つけ、その弱点を補強していくことを繰り返していきましょう。そして、積極的にいろいろな問題に挑戦してさらに実践力を養ってください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・2類・文型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	こちらで用意したテキスト（プリント）等	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学 I、数学 A の基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。 ・日々の演習により理解と思考を深め、大学入学共通テストおよび文系の入試に対応できる実力を養成する。
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>平素の学習意欲や態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を小テスト、課題テスト、課題レポート等で確認する。定期考査、小テスト、課題テストの各成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学 IIB の総復習 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数	学習してきた内容の定着の確認。	まず、こちらで用意したテキストを配布する。公式確認問題は前年度に演習したものからの抜粋なので、各自で予習しておくこと。 授業ではまず【基本問題】の演習から始める。特に数学が苦手な者はあらかじめこの【基本問題】を解いておいて、「どの問題がわからないか」だけでも確認してくること。演習後、解説を行う。 次に【実践問題】の演習を行い、その後、過去問などを演習する。	課題の提出状況と確認 テストの結果は十分か。 定石がみについているかどうか。
	5	指数関数と対数関数 微分法と積分法 (中間考査)		問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。	
	6	ベクトル 数列			
	7	(期末考査)			
【数学 IA の総復習終了】					

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	プレテスト開始	1 学期に学習した内容の 定着	共通テストの過去問等を解説する。 演習を通して、入試における基礎学力の 運用力を高める。	問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	10	(中間考査)	共通テストの数学②の本試験の過去問題等の解説を通して、マーク式の問題の読み方と解き方を身につける。	プレテストにより、実戦力を養う。 数学演習①と調整しながら、数回、本番と同じ60分の試験時間を確保してプレテストを実施する。	
	11		学習してきた内容の定着の確認	苦手な分野については適宜、課題を準備して、十分な量が演習できるようにする。	
	12	(期末考査)	本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。		
三 学 期	1		実践を繰り返すことにより 得点力アップを図る。	共通テストプレテスト演習	誘導の狙いを即座に理解し、機械的に問題を解くことができるか。

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死で努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多くやる事に尽きる。クイズを解くつもりで楽しみながらやればよい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	5	3年・2類・理型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	こちらで準備したテキスト（プリント）等	

科目の到達目標

- ・数学ⅠAⅡBの基本事項の確認と基礎学力の定着を図り、代表的典型的な入試問題に対応できる力を養成する。
- ・解法のテクニックの暗記ではなく、根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。
- ・実践的な演習により応用力と実践力を高め、大学入学共通テスト等の入試に対応できる実力を養成する。

評価の観点と方法について

平素の学習意欲や学習態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を課題ノート、課題テスト、振り返りシート等で確認する。

定期考査・課題テストの各成績、課題ノート・振り返りシートの提出および内容、授業から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	数学Ⅰの演習 (数学 A の平面図形 は含む)	定理、公式の再確認をし、 基本的な解法の定着を 図る。	授業ではこちらで準備したテキストを進 めていく。	定理・公式を正確に 使うことができるか どうか。
	5	(中間考査) 数学Ⅱの演習	共通テスト特有の問題で はなく、センター試験と同 種の問題を身につける。	定期的学習成果をはかる課題テストを 実施する。	解法を理解し、問題 を解くときに使える かどうか。
	6		問題演習を通して、典型的 な入試問題に対応できる 力を養成する。		課題の提出状況 テストの結果
	7	(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	プレテスト開始	共通テスト特有の読解問題、会話問題、長文問題に慣れる。	週に1回共通テストの数学のプレテストを数学①、数学②の順に実施する。 残りの授業では、実施したテストの解説または類題演習を行う。	今まで身に着けた解法を、入試問題を解くときに、利用できるかどうか。
	10	(中間考査)		定期的に確認テストを実施する。	融合問題を解くときに、融合している1つ1つに気づき、正確な解法の道筋をたどることができるかどうか。
	11			共通テスト対策 プレテストを実施する。	
	12	(期末考査) 冬期講習	本番同様の時間で問題を解き、時間配分を学習する。		
三 学 期	1			共通テスト対策 共通テスト後は志望校に応じた指導を行う	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは力がつきません。自分の頭で考え、自力で解かない限り、数学の力はついてきません。
受け身ではなく、攻めの態度で取り組んでくれることを望みます。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習②	2	3年・2類・理型	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	なし	こちらで用意したテキスト（プリント）等	

<p>科目の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学Bの基本事項を再確認し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・問題の根底にある数学的なものの見方・考え方を常に意識する態度を養う。 ・日々の演習により理解と思考を深め、大学入学共通テストおよび2次の入試に対応できる実力を養成する。

<p>評価の観点と方法について</p> <p>平素の学習意欲や態度を重要視し、基本的な内容の理解、数学的問題解決能力を小テスト、課題テスト、課題レポート等で確認する。定期考査、小テスト、課題テストの各成績、課題レポートの提出および内容、授業態度から総合的に評価する。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
一 学 期	4	数学ⅠAⅡBの総復習 ・数と式	解法の定石を身につける。	授業で例題を解説し、その問題を解くことができるかどうかを小テストで確認する。また、苦手分野の克服や公式の確認等を目的としたプリントを配布するので、それについても演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況 ・小テスト・課題テストの結果 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数、三角関数、指数、対数 ・図形と式 (中間考査)	標準的な問題について解法パターンを理解しその定着を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・定石がみについているかどうか。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・微分法、積分法 ・ベクトル ・数列 	問題演習を通して、典型的な入試問題に慣れる。			<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解くときに典型的な問題に即座に反応し、機械的に処理できるかどうか。
	7	(期末考査)				

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	・数列の残り ・場合の数、確率	解法の定石を身につける。	1学期と同様に実施する。	学習してきたマーク式特有の読み方・解き方が身についているか。 誘導の狙いを即座に理解し、機械的に問題を解くことができるか。
	10	(中間考査)	標準的な問題について解法パターンを理解しその定着を図る。	共通テスト対策	
	11		問題演習を通して、典型的な入試問題に慣れる。		
	12	(期末考査)			
三 学 期	1			共通テスト後は個別の出願先に応じて2次試験対策、私立対策を行う。	

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

授業を聞いているだけでは実力はつかない。目標を定め、それに向かって必死で努力する。やらされる勉強ではなく、自ら自発的積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。良問を1題でも多くやる事に尽きる。楽しみながらやればいい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学演習①	2	3年・3類	必修
授業担当者	教科書	副教材等	
*****	なし	プラクティスノート数学IA (数研出版)	

科目の到達目標

- ・問題演習を通して、数学IAの基本事項の再確認と十分な基礎学力の定着を目標として取り組む。
- ・数学的なものの見方・考え方を常に意識し、初めて見るような問題にも積極的に挑戦する姿勢づくりを行う。

評価の観点と方法について

- ・日常の学習における意欲・関心・態度を重視し、数学的な見方や考え方・問題解決の処理・知識の理解度を課題レポート、定期考査等で確認していく。
- ・特に、課題レポートの提出および内容を重要視していくので、必ず提出すること。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	中学校の内容の確認 数学Iの問題演習	数学Iの基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	四則演算・文字式の計算	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。
	5	<中間考査>		整式 整式の加法・減法・乗法 展開の公式 式の展開の工夫 因数分解 いろいろな因数分解	
	6	数学Iの問題演習		実数 根号を含む式の計算 不等式 1次不等式 連立不等式 不等式の利用 集合 命題と集合	
	7	<期末考査>			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	数学 I の問題演習	数学 I の基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	関数 2次関数 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次方程式	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。
	10	<中間考査>			
	11	数学 A の問題演習		場合の数 順列 組合せ 確率	
	12	<期末考査>			
三 学 期	1	数学 I, 数学 A の問題演習 <学年末考査>	数学 I, 数学 A の基本的な問題の解法を暗記し使いこなせるようになる。	数学 I, 数学 A のまとめ	公式、定理を理解し、問題を解くことができるか。

その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)

1, 2 年次に学習した数学 I, 数学 A の問題演習に取り組み、基本的な公式や定理について理解を深め、問題の解法を身に付けてください。1 回目に解けなかった問題はそのままにせず、解答を読み、理解できていないところを見つけて、

質問してください。そして、理解できた問題は、解法を暗記するまで繰り返し解いてください。